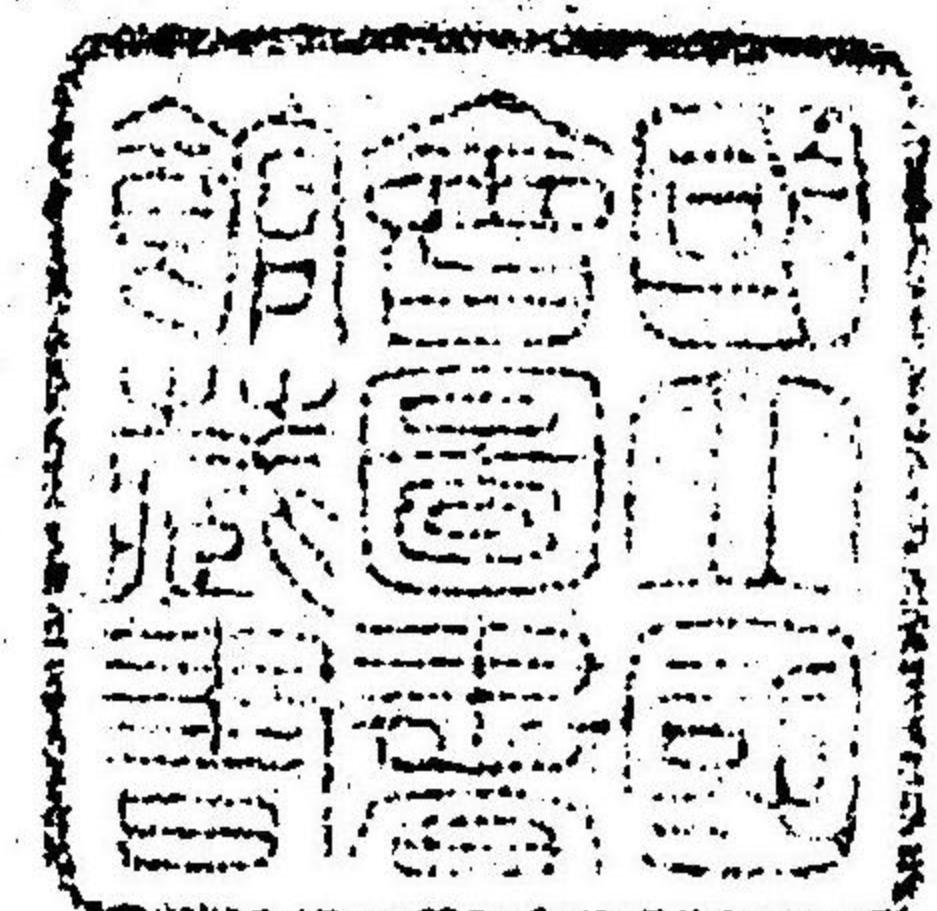


古今集考鏡

三

911.135  
M893  
R

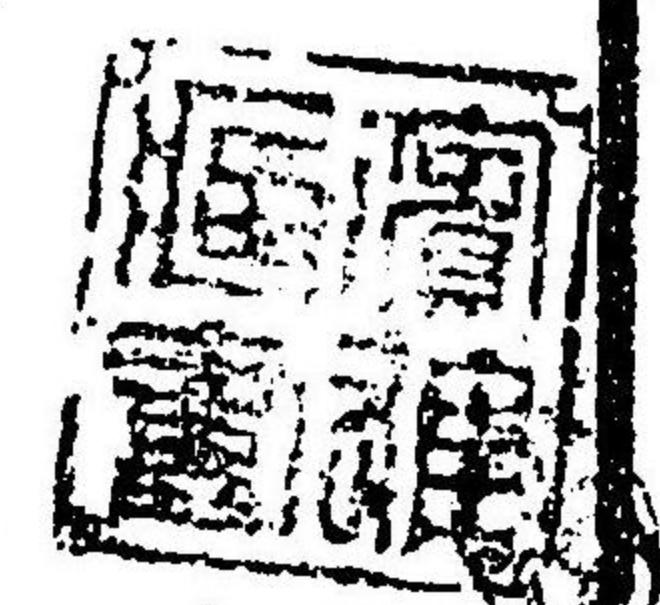


312441

古今文獻集卷之七

新一からじ

古人の事



かくはよそりハよきふれふのいとぞめりてあれども

○ヨカイ石ガ太キナ岩ホニナツテ若ノハエルテ千年五万年モ

古繁昌テオイデナサレコチノ君、

こくらゆの溪おまきどうばうごつめぐる年乃あくづぶき

○海ノ渓ノ砂ノ粒ラダジクニカツヘテ君ノは長寿ノ百年ノ粒取ニセウ

ちやの山さうぞの枝よきひすもの美が代をバハキとぞわく

○シホノ山サギノ聲佳テ井ル牛鳥ノ鳴ラタケバ君ノ山代ヲヤチヨトサ鳴キテス

コトヨリシハタケアシモトニテ  
○ワレラガレ長命ナヨハヒラ ソコモト<sup>ノ</sup>進<sup>ゼ</sup>ウホドニコレカラソコモト、八千世ノヨハニ  
上ヘ<sup>ノ</sup>レラガ歎モトリソテ ソコモトニト、メガカレタラバ後思ニダシサ

○ワレガは長命ナヨハラ ソコモトへ進せウホドニヨカラソコモトハ千世ノ矣ハ  
主へばワレガ歎モトリソヘテ ソコモトニド、メカカシキラバ、後思ニダシジサ  
ニシテあラガムタニ、ヒダサツシヤレ オサマヤ一旅村アラ  
仁和寺内院公遍院ハ七十の號也ハリノ御の御  
かくつとよもかくふとねぐへて天子ハ少代少代よりよ  
○朕モドワシテナリト共ニ長命デ居テ いまとすリニ 又イクタビニラ  
賀ライ、ウテ進シテ、ソコ入ハキ乗ノガスニドウジ逢ウヤウニシタニトカ  
仁和の名を以み小がハ一ゆーはくわくをモ乃  
八十の歴スナリもちよめばよほうきうるキモハハズ

がめきをふくらめてくる  
修正通(182)

おの假字をあらわす

おの假名とおへきく  
けとうゆゆめあるまへ  
ちりゆう

ヒトモリノ物トハタマニ  
大力タ神ノサキリナリタ杖アラツ  
ムレバ

此杖ヲツクカラシテ、千年ノ坂ニテモ  
ハヤスウ越ラル、テアラウト忍ム、

けりのあやまちぎみにて、がえり條乃

卷之三

○四十二トナリナサレタハ 初老トナシテヨレカラ 老ニコウトニシテモガドウジコヌ

ヤウニシタイモノナハソ老メガ生ルモテラフミヨウヤウニモ用モニ  
桺モヨ

タニトナリニアウテソコラガ写ウ墨ルヤウニセイソシタラシテ道ガ窮リテ  
先ル老ガフミヨウテエホニイホドニ  
か繁ハ方繁小多キ向之経ヒムカミ  
ケシタハシハシハシハシハシハシ  
ノキモ日トナリ  
きのうれをう

う。おのづかばのうをうのかくと大井  
きのれとう

きのそとをう

かきのとねのこをもてたる乃ちよおね

○は大井ノ近所ナ龜ノラノ山ノ岩ノ子ニツカテ方ナル例ノ白玉ノ多々數八

山壽今千牛ノ教力ヤシ  
山ノ名サニメテタリ龟山ナレヤ

まくらのこまのまきいのかあは五十九丈  
けんじ小様のたんぢやうか

加急成事局  
居

まくとよば全くふまくさ  
あめを天がふ年のあがくとぞえ  
○まがくとばげんをヘツバニサク梅ノ花ヲ君が千年トテノまく

ハガザジヂヤトサホジースル

ホリヒヨウ

ハサウエハナイニセヨ 千年イキルタメシテ君カラ始メナリテアラウ  
○吾君ノ千年ノ教ヲドウツ万年ニテモト、魔テモキテモ教ヒスルコト  
ハ久ノ加ニソ及バズニ神ガニミ通リニハカラヒナサケウカ 父君ノタメニ  
祐を蒙スル事も万葉小歌一詩ニモモロシキ事也アリと  
モウシヒトシ於キアリテモテモテモアリカのきのみハアリ

萬葉三萬葉六萬葉余多之  
左葉亦大也

○鶴亀ハ千年ノヨヒラタメツ物トドソヒソノ千年ノ後ハドウアル

ヤラシラスガ 父君ハ千年ノゾリツモダシシテハ千分二八をせよ其  
ウヘモタ存方ニキリタラヒモ事テオキヤセウ

此うハラム人左葉亦大也多之  
ナムのつ称なりトモトモのをふむモ免す  
アフリシトミハシ  
モセムヤシ

○君ハ万年ノ山壽今ヲ待ツナバソト云名、松デサオイハニヤシ

ースルサカシテソノ千年モアル松ノカケニ鶴ノスムヤウニワタキ君ノ  
千年ノオカゲラ蒙リテ共ニ長リ居てセウト存ジスレバサ

能都小ほりとリハ禪小鷲をもくせうかといへりよし  
下向れどもを能都小トシカヒトマツ

ナウタガクシの右太わ義系、初代の四十、號ペーリ

門下に季のあづけうしろの屏風ふゆうき

喜々せふア無みほみつ、一萬代といふよこと半をもくじ  
○山賀ノタメニカウ春日野テ、菫菜ラツミノ内チ、壽金ヲ万年  
マテトオイハヒヤス心懶ノホドハ、先祖、此春日ノ作ガサシ納受  
サシテ、山守リナサリデゴザラ、もくじの上ふいすがじ

山あくみやめふるやうもあくみのゆきとをくぬワシ

○高イ山テ、ミノアタリニ見エルアノ様をガキツウヨイ花ギヤガ

山が高サニドウモアソコヘエイカ子バ、ア、トウヅ一枝折テキタイお

チヤト思ウ心ガ、毎日アノ山ヘイテアノ様ラララヌ日ハサナイ

夏

矣、ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

○イツノ年モ月シ声デナケバナモスウラシイ声デハナイニアノ郭公六方  
ホクノ年舞年ヲテモサテモアサアカヌアカヌササシラウの経

秋

まみの木のねを枯風吹くふたふらまきが御あら涙

C 伝ノ江ノ松ラ秋風ガサア、トフクトソノ、ドカ、ト温ノモラ  
ウチソヘル

おもアホくらやの門をあらぬレ山の本聲も色キモアハ  
○佐保山木葉モ候ニ色ガ一サツテキタヒトモリナシガ今テニモウ

佑保川ノ音ガタツタサウナ。チ秋ヌ。アロムのミヨレバ。音アリ。本紫ハ色アヘカラシカガトヨウ。

秋ノ木ド色モかはシテナヒニモシテア。お葉城風をかう。

○秋ニナツテモ木ノ葉ノ色ノカハラヌト云常磐山キヤニヨツテ。山六之紫

ナニニヨソ山ノ木葉ラ風ガ吹テ來テサ。此トキハ山へ借スワイ

冬

アホおはゆりあくほきみと一ノアホ風ふむぞらひよ。

○け吉サノアタリドコモカモ白イ雲ガフラタ時六山ノ風デフモトハ花ガサヌワイ  
春宮おうきあれタケラシテ小ぬわりてよ。

典経蘿原より

おもアホくらやの門をあらぬレ山の本聲も色キモアハ

○春日神ノ御木ノ板原氏ノ中テモ候ニキナイ。方ノ雅君ノ内腹ニ  
テキドシナツタ若主様ナハ。テウドソノ。高日山ノ高ウウチハレテ  
クモル西ノナイヤウニ。行末イツデモクモリナウ天下ラ照シアゾバステ  
アラウトなジラース

古今和歌集卷第八を讀

離別句

鶯子づば

東京御平野

立豆かきづるばの心乃事あかくまうりきうば今からこそ  
○今け方ハ衣ヲ立て別レテ因幡至ヘトルガシムノイナバ山ノ聲ニハ  
エテアル松ノ名アホリソナ翁は方ラ待トテ冬ラギ支函テコウワサテ

よみ人ちづば

きがわく秋の義アシタぬらテ核ゆく人をいつとうちす  
○假立テ旅ヘエク入ニ曰義ノ笑テアルは秋ノ聲テ今ワカレガ  
オカヘリラバイトシウテタウゲンヤキツウキイーデアラウ

チナミシガラ形くの従うをが

かぎりめき雪のよまきかくもくをゆふおぐまじや

○今カウ別レテ限リモナイキイキヨリアチラノヨクハハイクキヤガソレ  
テモ此をほノ入ノタガ客絶忘レルモナニ只ウテ行ウギヤニヨツテ心内ハド  
ヨニテモイツシヨニラレダツテイクモ内レギヤワサ身コソカウシテ今別ルレ  
サアチナミシガラ形くの従うをがし終し終材よもし  
ものちあくがみちはくのまうけにまかうはまく

もよ免候

あくちゆれおや乃ヤカウヒトシヒキムハヌカヒヌカヒ

○ソナタノ身ノ守リキヤトヒウテ添ヘテヤルバ母ガ心バカリラハユクサキ  
ノ実而ヘデモ ドウヅトソテトサルナ トホシテヤツテトサレ  
カジヒミのミニおあすこぬぢハムおれハシゲ追  
ヒのミケハナカツムシハブノヌ乃ハシメヒキシ  
ルアリヘキス

ノマカモヒミハアリヒテヨリモキサシモササギハ神の御ハキ  
○今日別レテ明日ハキキニ又アハヘルホド近イ近江ニギヤトハリヘ  
カハツタモノテ別レトイバ懲シイ ア、彼ガイカウフケタヤラ 補ガ  
キデヌレタワイ イヤコレヤ後ギヤワイ  
アリマカモヒミハヨリモサシモササギ

ウムハアリヒミキサシモサシモサシモサシモサシ  
○カモニハカル山トス山ガアルトスナーバモノトボリニカツ一チは安  
ラテイカヘラシヤラウトハドソレモアノ鹿ノ立テアル方ヘ立テ別  
レテイカヘツタナラバ慈ニカラウ  
ノアリハアリモシムハキシモサシモサシモサシモサシ

カモニハアリヒミ

モニハアリヒミキサシモサシモサシモサシモサシモサシモサシモサシ  
○ナガリラシウムバドジタ・シヤラヌウチカラバヤハジウニシイホラ  
三 立テイカヘツタアトデハドノヤウチコ・チガスルデアラウ  
モニハアリヒミキサシモサシモサシモサシモサシモサシモサシモサシ

本原もよきも

わが身でハはやくハジメテヨリモヤウル元氣がふかれて通しき  
○別レテカラハキイドラヘダテ、久シアハシスギヤガトヌユエカシテ  
トダカウシテヌテ居ナガラカタ一方デハハヤスラカラモウシウヌバル  
あづみかのキモリムノヒモロコモツラバ一

ハクニのハケマサ

思レモカバ一わキモハタハタハトモカモハジケテゾヤ  
○ナバウカモリラシウヌビ人真ハニツニモラレヌおデドウモツイテハ  
エイカ子バ目ニハヌヌケド心ラリ其方ヘツハセテヤリース  
ホ坂ノトベヒモカモハジケル

。ふ秋云人をつづりシテアヒヨリ。因じてシテシテをサツシ  
人の様に小ちるふき人をつづり。あづみハノノシカツシテアヒ  
あづみ。万葉小名一様と云ふ事ある。スカツシテアヒムヒ  
リトヨトヨハシのうつぶやきく御ひもひらきゲシ。ほのふき。

ナホモモトアヅミ

。アフ坂トスガサシシ。名ノキリチガヒナイ。おナラバ。今まウハズヂヤ  
別レウハズハナイ。スレヤシリ多イニ別レテユク。此人ラアヒカラズミウハズヂヤ  
ヒミテトゾヨ。竹林ヲアヒテ。シテシテ。林中ハ寒  
ハシム。小名アヅミ。ニニの名を送す。小名アヒテ。モロヒ。冬の季  
カミシキモニ。さかのタラジ。あづみ。ホレヒ。シテアヒジ。

歌ノ歌

か。れ。も。か。ロ。き。か。し。然。が。の。お。き。ア。レ。ゆ。き。ハ。シ。ム。ハ。シ。ム。の。と。

。き。復。三

。九

○ □ 由立チノ日ヲバ明日ギヤトスアハワジヤモウサズイ ワシラバ

ステ、オイテ出ナセル「ナバ」由立ギヤトテハ、由日ノ物ニナツ

タナラ、ワニヤモウアノキエルヤウニアラウト森ジラリスモノ

レタハ、うる人ほシテ成ル事ニシテ、あヒテ一ツ

外年がつきて年へと暮シタル

カヨウタカ

既日ナリシ時トバウリシトハ、御事ハ、

モヤシタクモテラニモア

キムラタクモガリムシテ、御事ハ、

キムラタクモガリムシテ、御事ハ、

あハシタクモガリムシテ、御事ハ、

キムラタクモガリムシテ、御事ハ、

キムラタクモガリムシテ、御事ハ、

○毎日アハレル公利居チヤトハ、ゼレスニヅクサイ由心ナバ、ソレ

ユエリシヤ有ジ立ッテ、老隣ヘトリスル今度、旅デゴザリテス

キムリヨリモ、ソレハ、ソリモ、キムリモ、ソルヘの事アリ

ヤドリクト、おろき御、アリモ、モテマカク、モリシ、ソルヘ

女、ソルヘモ、ソルヘモ、ソルヘモ、

えどあ、ソルヘモ、ソルヘモ、ソルヘモ、ソルヘモ、ソルヘモ、

○オハハダ、ライツヤデモ、忘レバ、セヌトホシヤルケビ、ワハハドウモフレバ

エガテシセヌ、ホデ、ワレガ忘レルカ、オハガ忘レテトウテ、トサレスカ、余ガ

アシテイキテ居タナラ、オハケ知レウホドニタシテゴラウジョ、ワハホハ

ライウ追モ、モレハス、サイガ、オハ追付、モラバ、忘レサルデアラウワサ

あひきよをねまく乃、ほのうへまがりと  
おらうとすよみく。 姉ちやぶ  
きあみもむきあうのが、福ばくと人よひ、うりこ  
○半宿が今度ドレホドキイホヘイカシヤツテ。 拙者が心ハ  
イツモソノ半宿ノ方カヨウテ。 ニシツテハ居子バヒツキヤウハ急ガ  
今別レテ改ニアルトスラレルハカリヂヤ。 心ハ別レハセヌ。  
友ああづアムカウリ。 あふよみ

よーみのひで

かまねがくかくはまもくばぬとくふく旅うわ  
○雲ノアチコナヘモテイタヤウニ今度キイロ。 ナヘダテ、別レル悲心ニサニ。

今ハナヘニ進ズル此手向ノ麻ノコカナヤウニ。 拙者ハイロニ心ヲ  
クダイナサテノヨリラシイ四旅主テゴザレカナ。 よ秋云だよ  
あふきうて、袋入れて、道の歩きよけ料。 箱うちよ箱うちよ、ぬまぐろトウラゲうり  
みちのふくさかうり。 ふくみすてつふ

ほくゆき

あくやくはまくまくまくまくまくまくまくまく  
○ハルカニ雲ノイクモノ、ツテアルアチラノホテアラウモ。 拙者ハモクニ  
ラタエズ思ウテ君ヤウホドニタトニシカハダテルモハタサツニヤルナヤ  
人をわかれまくはくまく

○色コワヌニシムカナレ 別レトヌヘハ色デモナイニ ドウヌコトテヒヤウニ  
ニシムトツラウヌハレルヤラ

行  
人  
之  
言  
也  
不  
可  
以  
信  
也

九月晦日

○モルカヒトスハ久ジブリテモモニ六居トラズニ又アモカヘリトス名デコソアレ  
ウタニツカル山ハ 例アヤツニタツブグ サウスガ有テモ アルカヒハナイ  
アユカヒトスハ久ジブリテモモニ六居トラズニ又アモカヘリトス名デコソアレ  
コト一のモヘトモアキシムシテツクハナキ

おとくじあとかくほきんがふよしめりむづら  
○はオトハ山ノ木ノ上、ニアレホ、公カニウムハス、郎公ニアリトホリ  
テモレ、開与ラモ、ヨリラニ思フ、ニアラサウサエル 振者ドモ、回シサ  
御子、おもひうごうか、物のつうひふねが月乃に

こかくかくふやかうみかうのとくじゆかく

うじがうつぐぶよく、 あらわすわたり

かかくかくふやかうみかうのとくじゆかく

○トモドニテドウソオトシヤギリグスヨ 今秋ノ別レハシニオ

ワカニヤスハコボドナゴリラシイニ ソチハナコリラシウハイカイ

平ノ内

秋方おもゆふるむくわがまのほこのひふじやゆひ

○アノ考ノキヤウニキム共ニ立テ出テイカニツテ山別レヤタナラワハ今  
カラハアノキハヌヤウニジガシズイウモオナツカシウ思ウテタテルデゴザラカイ  
ほき称げばくゆあみじてゆうわきうけぶ

さくらめ

ノリムシハシカクかくすあら、 いり引モハシホレガまし

○余サケカセニナツテ死ナズニ居ラル、 艾ナラ十二ガサテ山別レヤスガコ<sup>ク</sup>ホシ  
シカラウヅイ人余ハ西國ノ所レモ知スニヨツテサ 然レイワイノ

シカヒナリキハシビのあくすをがくかふく一ツハシヒシホシ

アラカヒ

人やかのをかくふくすたくハシヒシホシ

○ヘノサセル旗テナイ 我心カライン旗ギヤニタイガイナヘナラ モウイキ

トモナイトニテドジヤカラウガ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

森山

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

トモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

○此坂ハ逢坂ナレバ人ニキウハズギヤニレ坂ヲコエツシテア別レテ  
イカクシヤルトカ コレテ人を坂ト云名ハ村モレサウニサエテ村ニナラ  
スサ名ヂワインノコレガ人ノメト云ヒノギヤ 人ノメトハ 人ニ村モレウヌ  
ハセテオイテソニテミキリデモナウテムダナムラニビス

○子秋云ガリヒキ坂と云ふ事ナリ。がりこくはり

あらえおちぬふあー／＼あらえおちぬふあー／＼

不思議なる

森山

○キ松ノトラウシヤルホヨノ道ハ松者ハ石葉四ナレバ 白山ハモトヨリ  
ノトモナシトモイタハカツシムシテシテアリ

タツノ雪ノ跡ラタヅ子テ袖もモアトカラ系ラウ

人の花シナリサムジキテゆきわづかくらむ

とあらうめふまゆ

傍山遍路

タツノ花シナリサムジキテゆきわづかくらむ

○タカタノけをノガキハ山トスエハヨイニサウシタナラ袖バドウモ  
山ハコモラレドイトヌウテアノイスル人モコヨビハコーデトアルヤウニ

ふすのねうてうへやまうじきくへおきりうき

レモボヨタク

幽仙は師

「とがきとバハの橋本ぬうとてきとせんじとくじハをのまく

○サナカウル前レナスハキツウルお念ナガトミテ地傍ガナボ方トメヤ

エタトテトアリハナサリイオドニコルハナシデモ此山ノ橋ニウチカヤテ  
四トメウモトメアイ厄アノ花シタニ波サウワイオノカタモヨモヤアノ  
花ラフリモギツテエカリハナサルトワサテ

うさんわんわみう。舍利金波がうわくもくわくを

波が橋のむすび工ある。後正色んだ

ひゆよちうく吹き見ゆがれうじまのうじもふくさくゆくぐく

○山風ニ此橋ノ花ラ吹巻テキリミタレヨカシソシタラ此花ノキリミタ  
ルハニギレテカルモガシレヌトミテ君ガオドリヲサルヤウニ

幽仙は师

おとがくはくのくべくわやハムヒウキハ花のつぶやハあ

○トテモアーヴニヌボドナラバ 君あり多ウ思ひテオトドリナサルヤウニ  
ヌタガヨイソニ君ラオカシヤスノハ 美ノキコエヌノデバナイカ 花ノキ  
エヌノギヤワサオカシヤサウヤウバナイワサテ 結々又花ヨシチカタメニモウ  
イ「デバナイカ ツチガタスニモウイ「ヂヤワサテ

仁和の日、うがみをふおとしゆトス時がぬるは候  
けらん。トボおハシヤーでかくはしこにすく候

兼善は所

うきをあそぼて候あはれむ事無く下をうかぐも  
○ノコリオホウテ別レヤス 桜情がけ候が候ニソウテ流レルコニテ、  
川下デハあがマシタスエルデカナアラウ

秋

かじの風が吹くと秋の口がひどく寒くなる  
秋の風が吹くと秋の口がひどく寒くなる

かじの風が吹くと秋の口がひどく寒くなる

○アノ秋ノ花ヲ此雨ニスマシテシラカシテシタハキツウ暗ウ思ヒ  
スジビドダソヨリモモホムニス」テ別レヤスガ  
サナホサラホ名ホラシイ「デヤト存ジラ」スワイヘトマヒトウアガ

リヤセソノ内ニ雨モヤニトゼウワキテ

とよめのきかへ

兼善は所

き一の風が吹くと秋の口がひどく寒くなる

○ソノヤウニ別レラ精ニテ拙者ヲお源切ニ足ウテサウト、今日テテ夏ニ  
モなゼナシダ サウシタモ根ノ志テ存ゼナシタウキニ 拙者が身ハサ此秋  
ノ時メノフレト云ヤウニ舊ウチウツモガラチノアカス物ニテミタベソ  
モウ若イ内ニ其出志ヲ知グラ 別シテ大モニガザラウニア、或入念十

か経ニおあやきみかをドモテおざるうつてお  
色ツル物ふと見ゆ

立か、色ジテアレノモアムヒトモアヌアセルヒトモアム

○西あレヤスハナゴリラシウハアレド サテアヘア族ニイカナセニトヤスニ  
今夜ヨリサキイドアヘ近付ニテラチダウチハ何ヲオナツカニウハ宣ヒマセ  
ウタ、今夜始テ以近付ニテラシタバコソ由別レヤスナースレヤ別レナガ

リラシウ足ハルヤウニ近付ニテタムガナボウカズレイチヤワサテ

別レラウビ  
タミノモアレ

シテアガム神のち、即ち未だ散ズトテ、アガム

○ノコリ多ウテ別レル袖ノ後ハトニト玉ノヤウニ彦ルガハ玉ヲバソコモ  
トノ形見チヤト存ジテ 即チ此袖ニリ、ギテサ系ル

シテアガム又ハ波ヨモヤジム、袖をかきり、おじヨヤマテ

○此別レラナシボウカ懲レウ思シテ此ヤウニ注、後ニヒツタリトヌレタヒ神ハ又  
モウ日マデハ乾キハスヘイナセニトヨニコボドニ懲シウタウ一ギヤニヨツテイツニ  
モ忘レラニ、イホドニイツラ限リト云モナウ注テヌラヌテアラウニヨツテサ

カミハシレシトハ、おもがく、おもがく、おもがく、おもがく、おもがく、おもがく、

○此もあハドモフルホドナラバアツクラニナツテソウトツヨウフジタガヨ

ソシタラレムラ<sup>四</sup>イヒタニシテ、シテイク君ラトメウニ

アシケルヘキモシテ先も様を以てばきとゆきとゆきうち也

○ナシボトメテモトーラズニシヒテおヒテイク人ヲトメウニ楊花ヨ通ノシスヤ

ウニチリウヅニテドレガモチャトアソヘ、迷ウテエカヌホドモテクレイ

おぐおじどをもひてアキのわやかくわつてシム人のう  
れりとよもよとよもよ

ばくゆき

むきよの土ツケレルかびす山乃井ぬありでまくふおきぬる哉

○想沖波ヤウナ山シミヅハ浅イホギヤニヨツテ飲ウトヒテスクバニ

シカラスルキドギキニヨ<sup>五</sup>ルニヨツテ思ウヤウニスクウテノベレヌ飲タヌ

物ギヤガテウドミモリニサテ<sup>六</sup>アカリタインヤノ入ニシタヘカナ

シテホラアラム<sup>七</sup>アラム<sup>八</sup>シテホムホムをひつきてかうも  
シトトテ候フテシトモ先處 とことのひ

トは第のみちハカジ<sup>九</sup>ジカカシモカシモ先づりてもをじとぞ思

○モニスルニウシロヘアテ夕所デハ端ノ方ガア方ヘワカレルケレ庄前ヘ<sup>十</sup>

ハシテムズブ斯デハ又イキアウ<sup>十一</sup>おギヤガモモリニトイク道ハカウ別ニ

ニワカヒテイク尾スソノウチドウシテナリ尾<sup>十二</sup>ウフサテ

古今和歌集巻第九を總

羈旅

あらじきと月を覗くよし 姿儀仲麻呂

天の川ぬけぬきとれば夜日かうすくもおふゆ一月・<sup>と</sup>

○今かウニテラヅートハルカニス波共アレ<sup>ト</sup>海ノウヘ月ガデタア<sup>ヒ</sup>

ア月ハ奈ハノ三笠山<sup>ヘ</sup>出夕月テアラカイ<sup>ト</sup>ア

此處へむかへ船うきゆをかうへてねあへ<sup>ト</sup>か  
はる一<sup>ト</sup>モリ舟ふりまの<sup>ト</sup>波<sup>ト</sup>えかすよ  
うぞこざわきとひきとく又アシキウツコウム  
ゆびて風ふぶきをかうへてみだらか

とよとよのうみ<sup>ト</sup>さがのうみ<sup>ト</sup>のうみ<sup>ト</sup>  
一<sup>ト</sup>きみにかうて月の<sup>ト</sup>おきてからくや<sup>ト</sup>物

見せめうへとあへてなまくらをひき

おまのむかへとくらはおのき<sup>ト</sup>おひかへてあき  
人のよかへとくらは<sup>ト</sup>小野あがのうの妙良

ア月<sup>ト</sup>天の川<sup>ト</sup>月<sup>ト</sup>人<sup>ト</sup>月<sup>ト</sup>はのきの約舟

○ユクサキハイクラモナク<sup>ト</sup>ニアドタル鷗<sup>ト</sup>月<sup>ト</sup>イク<sup>ト</sup>キ海上へ今

出船シタトエアラ<sup>ト</sup>を三人ニシテニ<sup>ト</sup>ヨリアリヤ<sup>ト</sup>海<sup>ト</sup>イクアマ<sup>ト</sup>

約舟<sup>ト</sup>海材<sup>ト</sup>約舟<sup>ト</sup>従<sup>ト</sup>爲<sup>ト</sup>

歌<sup>ト</sup>し<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>を

とよとよのうみ<sup>ト</sup>さがのうみ<sup>ト</sup>のうみ<sup>ト</sup>

みやこ船をひみうれしめにいわくわせや

○今日京ヲ出テハミカラ系ヘキテアノ向ヒニタル山ハ麻葛山也ガナ  
泉

川ノ川風がキツウキイニアノカセ山ヨ オレニキルモヲ一ツ借せ山  
ムタニのカセリトキ麻葛山と云ふ  
ムタニアリ。译ハシタウナリ

ほのくじうの浦乃所亦小竹が見ゆるを

○夜ノウス<sup>ト</sup>アケテクル皆此ニ上カラスレバ アノ向ヒ千明石ノ浦が絶景  
デカクレテ又エヌヤウニナツテイクアノケンキヨ キウヨソニテイク  
レ船中心ハサテモ<sup>心</sup>ホソイ物ガナシイチヂヤ

けあはうくのくわきのまのくも竹が

此えハ奇聞尔出され<sup>アリ</sup>。ハテ奇物也。小竹葉へのうそ

のくじうの浦<sup>ト</sup>アケテ<sup>カ</sup>キリ<sup>ト</sup>見ゆ。海と並<sup>ハ</sup>テ<sup>カ</sup>キリ<sup>ト</sup>  
あるハ、ちうとくが得<sup>ハ</sup>テ。おーあくは、<sup>ア</sup>の浦<sup>ト</sup>。ノ<sup>ア</sup>初<sup>ハ</sup>也。年。  
才<sup>ハ</sup>の毛<sup>ト</sup>かく<sup>ハ</sup>。約材<sup>ハ</sup>の<sup>ア</sup>れ<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
とく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
かく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
かく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
かく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
かく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
かく<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。

おづのう<sup>ト</sup>、<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。  
おづのう<sup>ト</sup>、<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。<sup>ア</sup>く<sup>ハ</sup>流<sup>ハ</sup>。

あの度もおかかわがれりてうらやましく思ひとどかし

らふをもむのとゆる事、おふ業よれむ

からぬきつねきが一色せしらむ一色の旅をとどめ

○一 きつ おにニナシンド妻ガアバ別テハルベト來タシ旅ガサ

コロボソウおガナシウヌバル、

もひつむくゆきのまのまのゆがりきみ  
川のやまへゆきのまのまのゆがりきみ  
色バキタニシムカツカツカツカツカツカツカツ  
ヘヤタツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ  
カツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ

うじてかくはくのまのゆがりきみ  
色くーとあじまきのゆがりきみとあーと  
あくまのぼとくふくじりきあよハヤーぬまのゆがり  
色をみゆくえくいほーちよーとハヤーぬ  
色バキタニシムカツカツカツカツカツカツカツカツ  
カツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ

○都トニラ名ニツイテ居ルナラバ対テホノヲラヨウ知テ居ルデアラウ  
ホニド「ヤモントハウ都鳥ヨコナガヌツハキタテキルカトウギヤ

題あらげ、

おもひてうら

おもひてうらぞおもひてうらぞおもひてうらぞおもひてうらぞ

○北方へイスルヲガサアトヤハワイノワジカリカトホバアノモツダツテ  
キタ友ノ叔ハタラヌヤウニチツテヤハラシビテアリヤウニ泣テイスルトスエ

レキハシムノ男女モハシムノレキサガクシムトモシキニタモジサシタカ  
アカヒタカナシキアガシムタカシムトモシキニタモジサシタカナシキニ  
アツクガシムタカシムトモシキニタモジサシタカナシキニ

おや

ハラシムトモハシムトモシキニタモジサシタカナシキニ  
○ドノアタリガホミクノ山モヤラ片時モホウカリタウロバモウホノ山ガ呑  
ルカヘトモラツケテアルケレドドレギヤヤラシスアノヤウニ山ヲカク

シテハツキリトアセヌモホノ震ガサキコエヌニ度デヤ

アーベニシカカリムトモシキアーベニシカカリムトモシキ

カニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシ

○ノコラズ滴テシニウ防トスハナクテイツデモアノヤウニセガアベレシモアタ  
白山トス山ノ名ハサキアーベニヤウイオサニ名ハシラシモアトス

レウシキヘナシカカリムトモシキアーベニシカカリムトモシキ

おや

ホニヨリセキカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシカニシ

○ナシモ系ニヨジハ細ウナルギヤガカウシテホツラ別レテキタ旅ノ道

ソノヤウニ系ニヨルホデハナイニサキヘアヒボソウ思ハシヘカナ

かひのゆく風ふるむをひそむてゆふる

みづ林

雨風きみあくまくもおどりてよの枕ふらうじゆね  
○レゴロハ夜が空サニ草ハ空ガフツテアレライク夜が空ホララウ  
テハ子ハラウテ子サノ草ヲ枕ニシテモウヤ往リモチ子タ

あらざれぬゆすりあらわすゆの浦とすあ  
みとめうてタマシムヒツクルホセウスミタマ

あまみりうつじでふよみ、薙原かひのを

タマトあらわすゆすりあらわすゆ、あけてアモア  
○三二見ノ浦ノキラヌタイおギヤガヨヒ六霜月夜テ一ダ新ガウス

ほのちがきかき絆ておぐめうれしもとへ風やうき

○ほノホヨセテクルハニードヰノ散テクルヤウニ空言ガレヤウニホヨセテ  
後テウテ名流ノ氣ハアノ沖シサイタモガ津シカカラモテクルヤウスモ  
サテ花ヲサカスムモノイヒノヨセテクルハ風玉シマツスヤムシタメニ六風  
が互ニトリカハツテアノヤウニ花ヲサカスカニラヌ お美絶上アマシナシホダニモア  
かくやぐも けやき

うさみのこぐまくまくまくがみの御よみかす書  
○オレガ黒イ髪ガ色ガカバツテシラカニタカシラヌ後ハタハタ  
絶ラズレバツリヘテ白ニ雪ガフツタ  
トモダガモ

ウ　毛きのびづきジバ　トモヒトシホト　トウシテ　財子

○山里ニ住デ居レバ　ジヤウヂウ雲ノハル時モナイ　サウナツテサヘ記  
ノウタ山中ギヤニ　何トセイトシテ　ジヤウニ雲サヘマル時モナイヘ、  
カ　野　　シヨドミ称

友キのうハモジシテ　ね西ムのウカ　の　於キツクヒウ御

○松者ガタハテウドウハ、六支ノ事ガハイ、全シテアルヤラナイヤラ  
シヌ沼水ノドウナモノデ、其間ノ人モシラシス立身モエセモバ、テウドヌワ、  
沼水ノ流ニテヲ形ノナイヤウニサクヘテユカヌアカナ、オモシロウナイーカナ

カ　木　　保モドクシ

妹ノ母のうのうや、肌も毛うをむとちひ、うり波

あじきふハヅアシの地モキム、ビキシガ繁モアリ、神やう龜モ  
○半ヘノ手向ハ出家ノ身モケツリノ袖ナリ、ヒカリギサニテ、麻  
ニシテ手向ハズナレドモ、ビヤウニルナ、お紫ノ綿ヲラーハイ、足テ  
出産ナサル、本ナレハ、ビヤウナキタイツリノ切ナドハ、ヒタケハ、  
サルヘイ、は返シサシテカナ、ゴザラウソユエサンニカヘテ手向テせヌ

古事記歌集モ第十を總

物名

カ　木

若木　シヨドミ称

○走漢三

○七四

ひきくわざわづくふきかぢづく。  
○オノガハカラススキデ 花ノキトニスレナガラ ツライコトギヤ 乾カクガヌト云テ  
喜ハシヒタスラアノヤツニナクノハドウエトヤラ  
ほそぎれ

○ 郭公が待ツ妻、来ベキ ジセツガヨテ コヌカシテ ハチガ子テナリヤノ声  
ガ人ラビツクリサセル 新ニヤウスの意のうち  
ナササヨクル 但一 猛カハ後ハヨク

うつとく  
まよあすか  
めくらひ  
ゆふみや

卷之三

卷之十

○浪ノウツ川ノ附ラヌレハ、水玉ガトントマコトノ玉ガサルヤウナワイ  
アラ玉ヲヒロウタナラホシテ玉デナイホドニ袖ヘ入ウトシナラギキニ  
消ルデアラウカ 鮎村フジ

九

卷之三

○本格ハ袖ヘ入レウトシタナラキニキエレデアラウカトミハキルガ テモ  
セラオイテホニ玉ラツマウカ セヨリホニ玉ラツマウカ物ハナイハサテ  
スヤキナホノ袖ヘツンデコレガサソレデゴザルトキテワジガ袖ヘウツサツシ  
ヤレワシモヌヤウワサ オサナドク  
タマハツジ

卷之三

あめう。かくはくをくわくに  
かくはくはくわく

○ めえハヤシイウイ わヤ バモナウヌテシイサウテ 目ニ常住スレ  
サウニモヌエヌカナ ソクセアトドテ カリサウナ番ヒヨウニホウテサ

勿忘我

۱۴۳

かづきと他のものよりさうしてゐた。彼はひどく

海ニ波ガ立テ水玉ノキウテキエツハヨリヤウナガソレラホシヨヤトロウテ  
一チモ海ノ底ヘハイツテ取ウトスレビ浪中デ、ドウモ辛ニアタライデトラレヌ  
ソシテ凡フラクミ及ニテウド底ニアル玉ガウイテハジグミウイテハジグミスルヤウニズエレ

卷之三

今、どうも喜びが絶えず、めいにがんばる。おまけに、

○モウ春ノアニダハナニホドモナケレバツラありタウヌウテ人トヨジヤウニ

モニキサウナカホレテ  
おヌイスルヤウナサウヌエル

か  
と  
お

ああうとうとくはんじゆう

（アーヴィング）アーヴィング、アーヴィング、アーヴィング

あらばよ  
をのあき、うぐ

۷۰۱-۷۰۲  
شیخ مکانی  
میرزا علی شاہ  
پاکستان

行赤ノサードウチラウキラシヌ世ノ中ギヤワニノ

とくとくおぼえ  
とのつる

おけとろくゆうの本の経きをか

あくまでも、おまかせをうながす。おまかせをうながす。

やまかきの本  
よみくわしひ

秋のきぬ今やあがきのきよ  
今  
秋がキウコーテ、風ノ音サニ、ガキノ聲がモウホシケヨナヘナデカナアラウ

あひづえ

カクハラリハルニテヒトハギスベキ  
○ヨホドニモサガニナツタスヲドウシテライトヌズニ居ラウヲラク思ハイテ六  
人キルシテ後ホアシヒノミシキバヤハジ  
○人ヨラツムユ立ニヨカラ後ニモシキフイガキウナツタナラワノウチ  
ハラズニヨチガワライノニナルデカナアラウ

了小  
行公通照

ちりめんと、ばねと、のくと、ふわふわと、うひと、けよよどみと、うれい

卷之三

○オーハ花ト云ぬラ今始メテヤアシタガモラバセラノ人アダナホチ  
ヤトヨギヤガナホドスレバアダナホトヨキ色ギヤワシノホツアシ  
をシカヘー

トシヒム

○ホラ至ニシテウナグトテヤラ 蜂ガモモヒノ花モ葉モニナ糸ヲ引テカゲ  
シテハ風もくさわらびテアシテモヒト今ミホシヒシマリテアシル  
○女郎花ラソヤウト足ウテ紹ノアラシテヌケアルイテ 今

日サホヤ山ラドコモカニヨモニナトホツテ 知ツメ

朱雀院のモニカヘテ ほのせの葉モミナシテ

モジテウラモミシテシテハ、鹿ホリノホシトモシトモシトモシ

○小倉山ノ峯ノアクリラ アチコチアルイテ鳴麻ノコニシテ  
タ秋ノ聲ラサ行年ギヤカルヘ、ナイ

モシカヘテ

あさちか。おまが。ふるみ。おの。おほ。おお。おお。おお。  
○野ノケシキヲミバキカシノ相カナシイ。おまが近ウナツタワイ。アシオイ  
タ草ノ紫モ色ガハワテキタ。秋ナハ。ね。お。お。お。お。お。お。お。

秋。お。お。一。秋。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

卷之二

卷之三

五  
六  
七  
八

○惣レテ世中すハ士モ 有ルお手ト思ウナ 楚ニシテモ れニ六サナ  
リガタスニ<sub>三</sub>せ中ノキラハ皆無イお手ヤトシケトラウシルガヨカラシカイ  
キホガ  
ヤミヘの名実  
アラツキハコトヤモハ食成スヒキモホのモシマリと  
○毛ヲタテサリキナリ濃イ色モトスヤウモノカアレハ毛ノ色ヨイナリ  
ナリ オイタキナシテソレアリナリ 濃リタヒバカリナシテアラ  
ニ條若春宮のみやもとじ所トヤキモハキモ先ヒトホキ  
づともだくセアリソレヒタヒナシテシテ

城山の御子で  
ある事なかれ

○ばかうりをうえ、スバをひき、キ木テモアレタケレバ、むがせキシタワイ  
放せバナマジイ木ヘモ本家ナルサウ。年ヨリシタ勢けカモトウヅ立身イ  
タスハモアレカニト彰ヒスル後、ダガリス、竹林のわの勢の先ハ、うも  
あひづぐま  
きのこ」

也  
矣  
矣  
矣

新公ハ喜ノモト中トニテイタカララヌアラニラテトハナケレント

トウモロコシハスヤウガナイ

卷之三

お前を。清暑堂の中御樂の間へ長くもてる秋の枝をお  
見ゆ。とては、枯葉カクイありまへ。體原タケハラも、木立キリも、  
くわへるとき、かくは、こうやうが、うきと、保氏ホウシや、あらわす  
さくらんばの、あやか、かくは、とて、あむ二の、あやかと、本多ヒロタと  
おきもと、彰アサヒの、秋アキと、秋アキ不深アキハシム。うちの、まよは、たまき。そ  
まよは、あく。改めつゝ、おみふ、行アヘンじとも。

○蟬カラヌ又ギスニ  
ドホモトメテホイテモ身ハトヨヘカズシテイヌ

少が  
或人間モテウドフニモナテ  
人ゴトニ死ヌレバ皆カラタラズガ館ノ

中止テアガケ用 カジシノ玉レヒト ユトニテイ又ヤテ  
ニナシテシマウク、サカナシイゴ手  
あけらるし

かくのぐく  
かくやく

جَعْلَةً مُّكَبِّلاً لِّمَنْ يَرَى

○モモタイトラスハ差ニテモアバハガ井ルトニナレバ一差ニ元タガリテドウニテ心ガヰヤウグシナウジニモテナヘタタラヌヤウヨリモモナラ  
さかうきかけ  
あらもみと

さかづき  
おもて

କୁମାର

の毛バード。カモメ。ミササギ。  
モウソウ。タカ。サカナ。アヒル。  
コラガモ。ツノトリ。ツバメ。

久留里毛原

さとニモノリソルウイ タクタ一サカリナキラジヤウニ津ハトヒヨイコヲ

かくのう

おがくけ、泣き声をあけとたふ。うさぎおもひありう  
つれぬくふる。

いのちうそと、死ぬとあるよりかうそをあれば、油子じ  
○せへシノ虫ハ、あラ今モヤトヒウテ形ミニスル形ミナリケイハガナイ  
おチヤニヨウテ 雜美ニ思ウテカナレサウニシテ

かきのまひ

さよならがれ  
おとづれの  
よめのやうれ

カトリジ

あれせんは原

○ワラキナズ煙モミツアモモルハズヂヤニ煙モタズモエリ庄ヌキモトノホヂヤモ  
ノラタケガワラズトキ名ラクケタカ「ヤラ」○お松が山の、お名のよみがまか  
ナラ一ノツノルをセトバ おもむきのゆ

○。○。○。○。○。○。○。○。  
○近イウキニモトイセウドタガヒニ約ホラシテカイテ 其日マデハツイリヅ  
カノヨクニミウテ持ヲアビダニヤ大も日教ガ名タワイ コレデハウ古  
ウカキタケモトナイモノヂヤ 逸ハウトヨワシガハアビラバヘニ元  
ラレテアタニヨシナフタラぬホセ子ヨカツタ

ナリ ねつぞくくふと お湯

あらじよ。おひきわづきをうるすばかりひくつて、まめのゆう  
○イロヘサードノウイシニアラニテ身ヌクセス三居十ガラノ  
ウイドンカズタリテツメテボグカウーデハルイ アヘヤクナチカ  
がくちくくはくとくをうちおまえル

お湯、ほのか

ほのあらじよかくまくたすやくまのゆう、おひくつて  
○アラジヨクサカラカツテナエルハ ば唐琴ア、調子モケサカ  
テス あく細ミニナツナキアツテハ改シタカシラヌ

ソラドウカ

かゆみのゆ

おもひおもひのまゝ成る事無く、いきなりもとえども  
○舟ノ力チヘアタソタシテナダケテ手を取ガ今すまば花がた  
只シトトモギヤエラドウシテモトスヌ者ガアラウジ  
むのまゝにりあらうむすびはなつて、おまかし

○え、アレ、辛崎二人力主テキルガアリコヘ全テニ、伊能庄蔵  
テイツカラア、シテ居ルトヤラ今モテ、波多ナラモ、此がアリテナ  
わナレド、波多ナラモ、後タ政モ、サツナリワ

孫  
叔

ケレハ ハリキリトハアエヌニ 夜がロテカラサトクトルヤウ  
モモタクボミタマのモトホガシムホウカクルノヨリモアヘ  
モモタクボミタマの川乃カクルモホアリカクレモドゴメミ  
モモタクボミタマのツヒキモカクルモアリノラハ  
ラホリツカクルモホビタマカクルモアリカクルモアリハ  
モモタクボミタマ  
モモタクボミタマ  
モモタクボミタマ  
○叶方ドモハ今日ハ一日村ラシテアルイテヨツト天ノ川系ヘキタワイ  
日モクレタニサナヨイ五キタ天ノ川ナレヤタナバヌニ宿ヲカラウ  
トウカヘレガデケナ六ターバ  
ミヒナモモトヨモツトサレモキモホクホクモミ

○老殘三

〇六三

とひかわくとよせく さのうかづみ

一とやかくあじきすへ天まで、やどかとくわがじとくとよ

○イヤく天ノ川テハ一年ニ一度、出ナサルを星ト云方ヲ待ツチヤ

ニヨツテナカく外ノ者が宿カラウト吉多トモ 借人モアルトイトサズル

朱雀院の下へ小おとしゆへとひかわく向山か

てくもをぬ

ひかわくはまくとよせくとゆかくお葉のやーせのまか

○けだく旗、青竹エヌサモに用とばサンダソレユ<sup>五</sup>ホノムニカ

セニトなジテ即ナ山ノお祭、錦ラソード、手向ースル

素性は柳

○翫竹ノ木ハ秋ハ実ガナルあギヤガ月ノ中十桂ハ秋ガキタテ実ガキ

カ実ハナリハヌタ、秋、おヨリサヤカナ光ラ花ノヤウニ四方ヘチラスガ  
リノアヤモラワニモ引テ秋ノ月ヲ格別ニ美穂スルハドウムツグイ

而和氣

ナク人ともぞ

花かくらむかくらむく風船をばくそくくとくとくハ風

○をト云をラバドレモカモ皆、ありオホイニチラシテシ、ウタヤウナレバ  
凡ラバオレハドレホドフクニシフグ タイティ不見ニ忍フアーデハナ

もとれ、う

ちとぞもぞ

花かくらむかくらむく風船をばくそくくとくとくハ風

○まへあベタリトフサガウテアル申ニキツテイク送ガナイナラバ 枝キ

。三

。四

タクシガモチタリハスティニ  
、萬ノ中ニモタガアルテキハカヘルテアラウ

あきよ  
みやこよ  
う

「うそだ。おまえの口は、いつまでも

○流テ知ル源サヘトキキヤカニレ又波川ナレバ  
ベシテ底ノ源サハイ力ホド

アリカレヌガモシ沖ノ底ノモテ水ノ干ル時アリタナラ底ノ源サモえルテアラリカ

卷之三

大江  
本草

○後藤ノカシニテハエタ苗テモ父ニナリテシトイハセズニ秋ハヤリハリ  
実ヲテセラアル田ノ稻半ヤトヨサヌ及ニテ居ルスレヤ某向テモナニテ  
モ方ツガケギヤトミテ爲テイヤウハナイヅヤ あづに白の絵落毛も

トモハシマリテ  
アラシヒタマニ  
ハシマリテ

卷之三

○ ゾニテニ月ニズアシカトロウテ  
花ノタニト咲テアルモラシテイケバ  
花ニ目ガ移ワテコチノ管ガサ花トソレヅヨニアキトモウテイクヤリナ

ヨモガスル

を続之のもとひたるも

